



第72回 川崎市立小学校川崎区学芸大会 報告

令和6年11月21日（木）「幸市民館」にて、川崎区学芸大会が行われました。

浅田小学校と向小学校の2年生の子どもたちが、のびのびと表現する素晴らしい姿が見られました。オンライン協議会では、感想や意見交流などで、練習の工夫や子どもたちの成長の様子などをうかがうことができ、有意義な時間を過ごすことができました。熱心にご指導いただいた先生方、本当にありがとうございました。また、運営に際しまして、ご理解ご協力いただき感謝申し上げます。

『ミリーとすてきなせかい』 向小学校 2年生

国語で学んだ「ミリーのすてきなぼうし」「お手紙」「スイミー」、音楽で学んだ「おまつり」を一つのストーリーにまとめて劇にした。ミリーたちが見つけた帽子をかぶるごとに新しい物語の世界に変わり、その物語の登場人物とミリーたちとの交流を通してどんな世界にもすてきなことがあることに気が付く。最後の合唱「青い空に絵をかこう」では気持ちをこめて歌う子どもたちの姿があった。学芸大会前に保護者や全校児童に発表したことで、よい意味でその経験が生かされていた。また、場面ごとにグループに分けてアレンジできるようなところや動きやセリフを児童と一緒に考えてつくっていったとのことで、子どもたちがやりたいことをやりたいようにやることのできた素敵な劇になった。

『ミツバチブンちゃん』 浅田小学校 2年生

ブンちゃんやアリさん、スズメバチやすず虫などたくさんのお虫の特徴がよく生かされていた楽しい劇だった。子どもたちにあった脚本を選んだということや、「劇団風の子」さんから2回指導をしていただきながら子どもたちの意欲を高めていった。また、衣装につける羽の色などは虫の特徴にあった色を子どもたち自身が考えているなど自主的に動いていった。劇中では、生のピアノ演奏が素敵で選曲もとてもよく合っていた。声が届くか心配だったので、ひな壇は使わず前のほうで歌ったということだったが、劇中のセリフや最後に歌った「手のひらを太陽に」では一人ひとりがしっかりと自信をもって声を観客に届けることができていた。

<指導講評>

川崎市立向小学校校長 若狭 美加

劇を指導していくうえで、有効な手立てとして児童文化研究会では「劇遊び」を推奨しています。児童文化研究会のいう「劇遊び」とは、新しい台本をするのではなく、行おうとしている劇の1シーンを取り出して子どもたち全員に体験してもらう遊びのことをいいます。全員の子どもたちがちょっと遊びながらやる、例えば、浅田小学校さんの「ミツバチブンちゃん」のアリさんをクラスごとでやってみる、ということをしていくと、子どもたちのほうからも「この役やれるかも」と自信がついたり、先生たちのほうも「○○さん、この演技上手だったな」と新たな一面を発見したりすることができます。また、2年生という発達段階上、どうしても演技指導がうまくいかないこともあると思います。立ち位置などの指導は難しいと思いますが、動画にとってみんなでみるなどして俯瞰的にみることが大事です。その点、どちらの学校も不自然な感じがなく、先生方の指導が生きていました。また、あてぶりにならないような指導もきちんとしてくださっていました。かえって大きなジェスチャーでやると不自然な演技に見えてしまうので、それをしなかったことが結果として自然なセリフまわし、自然な動きにつながっていたのだと思います。